

Street Library の設計

～和歌山県海南市「健康ロード」に対する提案～

発表者 : 981074 辻 健二郎
指導教官: 社会工学系 渡辺 俊

< 1 : はじめに >

1.1 : 背景

日本の都市は過去半世紀のあいだ、道路や鉄道といった現在の都市基盤を支えるもっとも基本的なシステムを中心に計画され、それらは我々の生活になくはならない存在になっている。今後、そういった都市基盤が充実した日本において居住という観点に立った質的な潤いを生み出す計画が求められている。このような時代を背景に、いま、全国各地で歩行空間を中心に、それぞれの街にあったスケールで失われかけていた地域性やコミュニティを取り戻そうという試みがされるようになってきている。

1.2 : 目的

和歌山県海南市に建設された「健康ロード」(ローカル線の廃線跡地を利用した歩行者・自転車専用道路)に対して、歩行空間の質的魅力を活かした施設の設計を行う。

1.3 : 和歌山県海南市について

海南市は、大阪

から南に約 70km の所に位置し、山と海に囲まれた自然豊かな人口約 4 万 8000 人の街である。市の中心部は JR 海南駅の西側で市役所や、商店などが建ち並ぶ。街の

主な産業として、伝統工芸の漆器産業や台所廻りのたわしなどが、全国的にも有名である。しかし、少子高齢化と若者の都市部への流出に伴い年々人口が減少しているのが現状である。

「第三次海南市総合計画」によると本地域を都市近郊レクリエーションエリアとして位置づけ、市を東西に横断する国道 370 号線及び、沿岸部を縦断する国道 42 号線を中心とした幹線道路の新設拡幅、バイパス整備等の道路整備を積極的に実施する計画がある。

1.4 : 「健康ロード」について

< 概要 >

海南市は自転車や歩行者の為に安全を確保し、市民の健康増進憩いの場として利用してもらうため旧野上鉄道廃線跡地に自転車・歩行者専用道路を建設。現在、市内

を東西に貫く、全長 6.9km が完成している。透水性自然色舗装材を使用して、雨水を地面に浸透させ、スリップしにくいように配慮した舗装がしてある。アスレチック器具やトイレを設置した「ポケットパーク」などある。

< 魅力 >

- ・海南市民の生活道路として機能している。
- ・住宅地の間を通り、車道(国道 370 号)が平行している為、防犯面で安全性が高い。
- ・様々な景色を楽しむことができる。
- ・勾配が少なく利用者にやさしいつくりとなっている。

< 今後の計画予定 >

「現段階では「健康ロード」という道を整備しただけで今後新たに何か行う計画はない。良い提案があればどんどんもって来て下さい」(市役所でのヒアリングより)

1.5 : 設計の方法

- ・その他の歩行者、自転車専用道路について調査
- ・海南市の現状について調査
- ・行政に対してヒアリング
- ・海南市の問題点、住民のニーズを捉える
- ・「健康ロード」に対して提案

1.6 : 調査より

現在海南市には、児童図書館、公民館の一室を利用した小規模な図書室しか存在せず、一般的な公共図書館は存在しない。

長期総合計画において、既存の道路(車道)を拡幅する計画がある。

若者の都市への流出、少子高齢化に伴い人口が減少している。



図 - 4 : 「健康ロード」



図 - 5 : 「健康ロード」

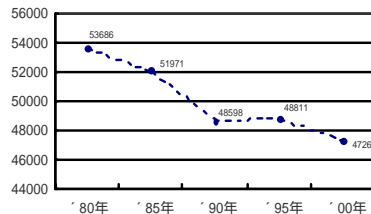


図 - 1 : 海南市の人口変動



図 - 2 : 海南市の位置



図 - 3 : 海南市の概要

< 2 : 提案 >

2.1: Street Libraryについて

従来の building type である図書館の解体を行い、道（街）にその機能が展開していくことで、本を読むという行為が単に机に向かってというだけでなく、様々なsean（食べながら、寝転がって、話ながら輪になってなど）で展開していくことが、Street Libraryの基本的な考え方である。そして、図書館という施設を通してではなく、本を通して住民同志の交流の機会を演出することが目的である。図書館+自転車・歩行者専用道路という組み合わせがこの考え方を実現する。また、今回選んだ「健康ロード」は、ローカル線の廃線跡地を利用してつくられている為、地域に密着している、市の中心部を貫くように配置されているといった魅力があり、Street Libraryの考え方を実現するにはより魅力的な場所であるといえる。

2.2: プログラム

全体のプログラムとして、道と直接かかわる形でコアとなる施設 (Book Shelf) を設け、そこを中心として道にその機能が分散していく形をとった。道というリニアな空間に対して、ポイントとなる施設 (Book Case) を配置し、道全体の一体感を高めることで、公共施設として海南市民に対し、広くサービスを提供することができるようになっていく。

2.3: 対象敷地について

< Book Shelf >

この敷地は海南駅から東に約 1km の所に位置し、敷地東側の阪和高速道路、海南東 I.C.、敷地北側の県立海南高校とその前を流れる日方川、田んぼ、敷地南側の国道370号線が周辺環境である。

< Book Case >

Book Case はそれぞれ、健康ロード上であればどこでも設置できるものと想定している。

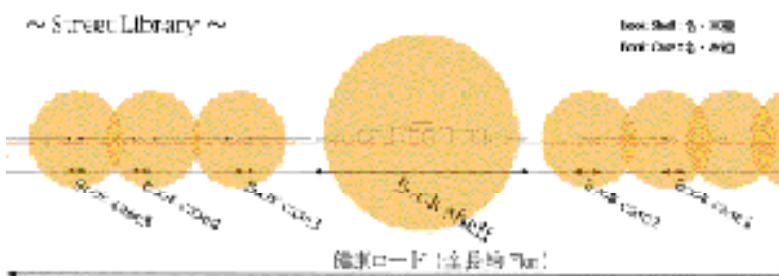


図 - 6 : プログラム図

2.4: 施設説明

< Book Shelf >

まずはじめに、Book Shelfの形態は、大きさの異なる立方体(箱)が寄り集まって一つの群を形づくるように考えた。次に構造は、躯体にRC、外壁に木のルーバーを選んだ。最後に、内部は健康ロードを歩いていると、どんどん空間が広がっていき、図書館のところで、4階分の吹抜けを通して上部の階に視線が抜けるように工夫した。これは、道を歩く人に図書館を利用してもらうための仕掛けである。



図 - 7 : 対象地 (Book Shelf)

- ・図書館 (Library) 公共図書館として、開架式を採用することで市民、そして児童を対象とした開放的な計画とする。
- ・植物園 (Garden) 市民の手によって育てられた苗木は「健康ロード」沿いに植えられる。
- ・スタジオシアター (Studio Theater) 基本的に映画館として利用されるが、市民の作品発表の場としても利用できる。
- ・スタジオ (Studio) 地域のサークル活動等に利用される。
- ・ギャラリー (Gallery) 工房等で活動している人や、地域の学生らによってつくられた作品が展示される。
- ・カフェ&レストラン (Cafe & Restaurant) 健康ロードを歩く人の休憩の場として、また、Book Shelf 利用者のおしゃべりの場として利用される。

< Book Case >

形態は、3m x 3m の正方形を基本にしている。これは、Book Shelf との一体感を出す為であり、また Book Case のスケールを統一させる為でもある。そして、機能的にそれぞれが何通りかの利用をできるようにし、絶えず道を歩く人に何らかの働きかけを行うようにしている。

- ・司書の家 (Librarian's House) 図書館の分館のような存在で、地域住民のボランティアで運営される。市民から提供してもらった本が扱われる。
- ・花デッキ (hana deck) Book Shelf で育てられた花が飾られる。また、健康ロードを歩く人の休息の場となる。
- ・勉強部屋 (Study Room) 司書の家で鍵を借りて利用する。
- ・ブックトークベンチ (Booktalk Bench) 子供達を集めて、book talk や紙芝居を行う。
- ・ギャラリー道 (Gallery道) 各学校にそれぞれ一つずつギャラリーが与えられ、展示、発表の場として利用される。
- ・ジャングルデッキ (Jungle Deck) 健康ロードを歩く人の休憩の場、そして遊び場として利用される。

表 - 1 : データシート (Book Shelf)

・敷地面積	: 約 6523 m ²
・建築面積	: 約 2131 m ²
・延床面積	: 約 3116 m ²
・地域地区	: 商業地域
・建蔽率	: 約 32% (許容 : 80%)
・容積率	: 約 47% (許容 : 400%)
施設名 : 床面積	
・図書館	: 947 m ²
・スタジオシアター	: 450 m ²
・スタジオ	: 300 m ²
・レストラン&カフェ	: 195 m ²
・植物園	: 744 m ²

参考文献

海南市総務部企画課 (H13.3) : 「第三次海南市長期総合計画」

朝日新聞社 (`81, `86, `91, `96, `01) : 「 `81 民力 」、「 `86 民力 」、「 `91 民力 」、「 `96 民力 」、「 `01 民力 」

海南市ホームページ : <http://www.wakayama.go.jp/kainan-city>